

教諭・栄養教諭・学校栄養職員・給食主任の皆さまへ

牛乳を活用した 食育授業教材のご案内

食の大切さ、食習慣や食文化の大切さを子どもたちにとって身近な食品を通して学習できるよう、「牛乳」をテーマに食育の授業を行える授業プランと教材を作成しました。6月の食育月間からはじまり、秋までの食育授業にお役立ていただける発展的な内容となっています。ご用意したテーマは3つあり、そのうちテーマ①「牛乳が給食・食卓に届くまで」の授業用教材を同封しております。簡単ですが教材の解説と授業のロールモデルを作成しましたので参考としていただければ幸いです。また、「第2回 牛乳ヒーロー&ヒロイン コンクール」に作品応募することで、より立体的な授業ができるよう工夫していますので、こちらも併せてご活用ください。

テーマ① 「牛乳が給食・食卓に届くまで」

牛乳に関わっている人たちがどんな気持ちで仕事をしているのかを子どもたちに想像させ、考えさせる。※当キットに同封

テーマ② 「牛乳を使った食べ物はなんだろう？」

普段、身近に接しているヨーグルトやチーズが「生乳または牛乳」から生まれていることへの気づきを促し、牛乳はどうしていろいろなものに使われているのかを考えさせる。

※Jミルクホームページにて5月中旬掲載予定

テーマ③ 「みんなのカラダに牛乳はどう役立っているんだろう？」

毎日の給食に「牛乳」が出てくるのはなぜか、栄養素や栄養バランスの観点から考えさせる。

※Jミルクホームページにて5月中旬掲載予定

その他の教材もご用意しています。

Jミルクのホームページからダウンロードしてご活用ください。

<http://www.j-milk.jp/>

今回送付した各種ツールのPDFデータもダウンロードできます。

「夏休みの正しい食生活」「冬の牛乳飲み残し対策」

「牛乳ヒーロー&ヒロイン食育イラスト素材集」など、順次掲載していく予定です。

●給食の時間や校内放送で食育を取りあげる際にもこちらの教材をご活用ください。昨年度、子どもたちの自発的な呼びかけで「牛乳ヒーロー&ヒロイン」コンクールへのご応募をいただいた学校もありました。

* 生乳とは、牛から搾ったままのお乳のことです。牛乳とは生乳を100%使用し、飲むように工場で殺菌などの処理をしたものです。牛乳パックの表示にも「生乳100%」と表記してありますのでご確認ください。

「食育」授業用教材 解説資料

送付内容

紙芝居「6月1日は牛乳の日」(導入)

いつもなにげなく飲んでいる牛乳が、世界中の人々の成長や健康に役立っている飲み物で、世界中で「牛乳の日」のお祭りまで行われているということを導入に、牛乳への関心を高めます。

紙芝居「牛乳に関わる人たち」(気づき)

給食で牛乳をおいしく飲めるまでには、たくさんの人が関係し、働いていることに気づいてもらい、食べられること、飲めることのありがたさを感じられるよう促します。

ワークシート「牛乳はどうやって届くのかな?」(発展)

授業や自習時間に「牛乳が手元に届くまで」を、イラストを並べながら学習できるワークシートです。人の手があまりかかっていないように思える牛乳のような食品でも、安心して飲めるようにと多くの人が関わっていることを知り、その人たちの思いに触れることを目的としています。

「牛乳がみんなの元に届くまで」授業プラン

紙芝居「6月1日は牛乳の日」

1. 牛乳への関心を引き出す

紙芝居を示して、6月1日は何の日か質問し、世界でお祝いされている「牛乳の日」であることを知らせます。また、牧場の様子を伝えることによって牛乳が命のおすそ分けであることに目を向けさせます。

紙芝居「牛乳に関わる人たち」

2. 牛乳が届く過程に気づかせる

紙芝居を示して、働く人の様子から何をしているのか想像させ、牛乳が届くまでにたくさんの人が関わっていることに気づかせます。

ワークシート「牛乳はどうやって届くのかな?」

3. 牛乳が届くまでを考える

ワークシートを使ってどんな人がどの順番で仕事をしているか整理していきます。搾りたての温かい生乳が、普段飲む冷たい牛乳として届くまでに多くの人が関わっていることを気づかせます。

4. 人の思いに触れる

生産者(酪農家)、タンクローリーの運転手、工場の人、トラックの運転手、栄養教諭など、牛乳に関わっている人たちがどんな気持ちで仕事をしているのか想像させます。

* 生乳とは、牛から搾ったままのお乳のことです。牛乳とは生乳を100%使用し、飲めるように工場ですて菌などの処理をしたものです。牛乳パックの表示にも「生乳100%」と表記してありますのでご確認ください。

紙芝居「6月1日は牛乳の日」



オモテ



ウラ

オモテが「問い」、ウラが「答え」になった紙芝居です。牛乳が牧草から生まれることや、搾りたての生乳といつも飲んでいる牛乳との違いを確認します。

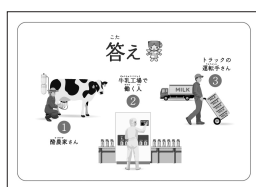
6月1日が何の日か、わかりますか？ 6月1日は「牛乳の日」です！

- 日本だけでなく世界でも6月1日は「牛乳の日」です。
世界中でお祭りが行われ、沢山の人が牛に感謝し、おいしく、栄養豊富な牛乳が飲めることをお祝いします。
- 牛たちが草を食べていますね。牛乳は草など植物の命からできています。
- 牛から搾ったばかりの生乳は38℃くらいあるそうです。
それがどうやって皆さんの飲むような冷たい牛乳になるのか、考えたことはありますか？
- 今日は牛乳がどうやって給食や皆さんのおうちに届くのか？勉強したいと思います。

紙芝居「牛乳に関わる人たち」



オモテ



ウラ

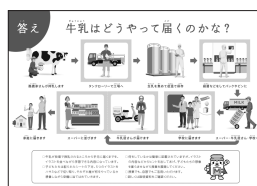
オモテが「問い」、ウラが「答え」になった紙芝居です。牛乳に関わる人たちのイラストや先生のヒントを頼りに、それぞれ何をしている人で、どんな思いを持っているか一緒に考えます。

この人は誰でしょう？ 何をやっているのか分かるかな？

- 【ヒント 1】 動物のお世話をしているみたい。大きくて優しい動物です。
- 【ヒント 2】 何かの機械に囲まれています。ベルトコンベアで流れてくるものをチェックしていますね。
- 【ヒント 3】 大きな車から、何かを運びだしています。なんだか分かるかな？
- 【答え 1】 酪農家さんです。
朝早く起きて、元気に育てた牛さんから、お乳(生乳)を搾っています。
『みんなが牛乳をおいしく飲めるように、まいにち牛の体調に気をつけているよ。残さずに飲んでくれると嬉しいな』
- 【答え 2】 工場働く人です。
大きな機械で、牧場から届いた生乳を検査して、牛乳パックや牛乳ビンに詰めて製品にしています。
『牛乳を安心して飲めるように、殺菌やパック詰めをして厳しい検査に合格した牛乳だけを製品にしているよ。
みんなに牛乳を好きでいて欲しいな』
- 【答え 3】 トラックの運転手さんです。
工場でパックやビンに詰められた牛乳は新鮮さを保つために5℃くらいに冷やされています。
その冷たい牛乳を工場から学校やスーパーまで、冷たいまま届けています。
『牛乳をおいしく飲んでもらえるように、温度管理に気をつけて牛乳を運んでいるよ』

みんなに牛乳をおいしく飲んでもらえるように、たくさんの人が関わっているのですね。

ワークシート「牛乳はどうやって届くのかな？」



牛乳が牧場で搾乳される場所から手元に届くまでを、イラストを並べながら学習できる内容になっています。授業でも、自習でもご利用いただけます。

- 牛乳がみんなのところまで届くまでに、どのような仕事をしている人がいるのか分かりますか？
- このシートは牛乳が牧場で搾られてから私たちの所に届くまでを表していますが、いくつか空欄がありますね。
- ここに入るのはタンクローリーの運転手、牛乳工場の人、スーパーなどの販売員、学校の栄養教諭の先生や栄養士さん、宅配業者の方々です。
- どんな順番で入るのか、まず自分で想像して入れてみましょう。
- では順番に誰がどんな事をしているのか、みんなで考えていきましょう。
- まず、酪農家さんが牛から生乳を搾ります。搾りたての生乳は38℃と温かく、搾ったらすぐ5℃に冷やして保存します。これを5℃のまま工場に運ぶのが「タンクローリーの運転手さん」です。大切な生乳だから優しい運転で大事に、しかもなるべく早く工場まで運ぶよう気をつけているそうです。
- 生乳は工場に集められます。工場ではたくさんの仕事があります。検査をして安全に飲めるか厳しくチェックする人、チェックされた牛乳を牛乳パックや牛乳ビンに詰める人もいます。皆さん衛生管理に気をつけていて、服装からして違います。
- こうして牛乳は工場から出荷され、スーパーで売られたり牛乳屋さんが届けてくれたりします。スーパーで賞味期限切れの商品が売られているのを見たことある人はいませんか？ 新鮮な牛乳をおいしく飲めるようにと考えて、毎日どれくらいの方がどれだけ牛乳を買っていったのか、ちゃんとスーパーの人が管理しているのです。
- 皆さんが牛乳を自分で買うことは、まだまだ少ないと思います。栄養教諭の先生や栄養士、おうちの方が、皆さんのカラダのため、成長のために牛乳を用意してくれているのですね。
- たくさんの人が最後に飲む人のことを思いながら、牛乳を大切に扱っていることを忘れないでください。

ご利用いただきたい関連情報

牛乳のふるさと牧場

- みんなが毎日飲んでいる牛乳は、とっても広くて空気がおいしい牧場で育った乳牛のお母さんからいただいた大切なものです。
- 1頭の乳牛が1日につくるお乳はおよそ給食の牛乳パック150本にもなります。何のために？ もちろん、子牛を育てるためにです。私たちはそのお乳を分けてもらっています。
- 牛は生き物なので毎日世話をしなければなりません。そのために牧場にはたくさんの仕事があります。エサやりは朝・昼・夕方の1日3回。365日休みなしです。もちろん牛舎の掃除も同じ。毎日時間を決め、きれいにします。
- 朝と夕方にはミルカーと呼ばれる搾乳機で1日2回お乳(生乳)を搾ります。他にも牛の体調管理やエサとなる牧草を育てたり冬のために牧草を刈り取って干し草にしたり。とうもろこしを使ったエサをつくったりもしています。